

2019.10.13の台風19号被災地現地調査報告

■2019.10.13(日) 県北を流れる吉田川堤防決壊による家屋の浸水及び農地の冠水状況

川の南側の農地も広く冠水していたが、町の中心部は高台に位置していたので、水害の影響はなかった。吉田川の北側は、堤防の決壊による冠水が広がり、住宅地も一階部分は、水の中にあった。ちょうど、被災者が消防のヘリで救出され、街中の避難所に搬送されていた。

◆宮城県黒川郡大郷町粕川三十丁

吉田川 大郷大橋から (北に向かって左側)



(北に向かって右側)



■2019.10.14(月)

24時間雨量が600mmという筆甫地区の下流に位置する丸森町の中心地に向かったが、その途中の道路(国道4号線)が交通渋滞していたため柴田町槻木から、迂回して海岸の方(亶理町・山元町)から角田市経由で丸森町に向かった。しかし、角田市の中心部も浸水していたため、車の渋滞が激しかった。丸森町の東側小斎地区を経由して町の中心部に向かったが、農地のほとんどが冠水し、農地の中を通る道はほとんど冠水。そのため山側の細い道を経由して、街中にたどり着いた。中心部はすっぽり冠水し、ポンプアップしていたが、広く冠水していたため、排水が進んでいなかった。街中は、新川・五福谷川の合流地であるとともに阿武隈川に接続する位置にあり、山間部の短時間雨量が激しかったので、その雨水を排出することができず、川の土手越水と堤防の決壊を招き、街中に流れ込んでしまった。

◆角田市島田高田 阿武隈川方向



◆宮城県伊具郡丸森町小斎



◆宮城県伊具郡丸森町千刈場



◆宮城県伊具郡丸森町字鳥屋



役場・町社協等が冠水していたため、引き上げることにした。国道113号線から山元町に戻ろうとしたが、山道ががけ崩れで通行できなかったため、福島県新地地区を経由し、帰ってきた。丸

森町は、山間部が多く山間の小川が大量の水を流しきれずあふれて小さな洪水をいたるところで起こしていた。山間の民家もその水の被害に遭っていた。

◆宮城県伊具郡丸森町金山地区

◆宮城県伊具郡丸森町金山地区



■2019.10.15(火)

蔵王町から大河原町・角田市を経由して丸森町に向かったが、角田市の平坦な農地はほとんど浸水していたり崖崩れによる通行止めがあったりで紆余曲折しながら丸森町の中心地にたどり着いた。

町社協に行くと、事務所は多少地面より高かったため、事務機の芦15センチまでの浸水だったため、机の上の書類・パソコン等に被害がなかった。支援物資として、飲み水6ケースを置いてきた。中心部は水道が普通のため、土砂が10cmほど一面に堆積していて、住民の方々が泥の除去に汗を流していた。

■2019.10.16(水)

大和町での洪水は、吉田川で以前と同じ場所でまた決壊した。

今回は、スーパーが点在している役場付近も冠水して役場前のコンビニも閉店して後片付けに追われていた。

◆宮城県黒川郡大和町吉田字高田下原
吉田川 下原付近の河川が氾濫



◆宮城県黒川郡大和町吉田字高田地区
スーパーが点在する交差点が冠水



■2019.10.17(木)

丸森町社協にマスクとタオルの支援物資を届けた。災害ボラセンの設置場所等を確認した。借用した場所は、泥水等が床一面にあり、18日に掃除したのちにセンター開設の準備に入るとのこと。当センターも設置に向け、全面的に協力することになった。

その後、橋脚が流された中島地区と支流の福沢地区に調査に行きましたが、裏山が崩れて家に流れ込んだり家が傾いていたりしてお互いの家に飲み水を配った。

◆宮城県伊具郡丸森町中島地区

◆宮城県伊具郡丸森町福沢地区



■2019.10.18(金)

丸森町社協の「災害ボランティアセンター」立上げ準備に、MDRC事務所に遭った長机6個と椅子6脚、大型のブルーシート(5m×5m)1枚、大型の石油ストーブ、雑巾衣装ケース1箱分を搬送・提供した。石油ストーブは、しばらく使用していなかったもので点火するののかテストして、使用可能を確認した。

丸森町災害ボランティアセンターは、旧スーパー空き店舗を借用したので、広々としたスペースがあり、ボランティアの受付、マッチング、器具機材、ニーズ調査・管理等のセンター機能を発揮するのに十分な広さである。また、駐車場も周辺に駐車スペースがあった。ただ、通電が今夕のため、十分な準備ができない状態。さらに、水がないためトイレが使用できなく、センター運営に大きな課題になるのではと思った。

高速道路の通行料無料の手続きもわかり、実際使用しスムーズに通行できたが、仙台東ICは無人工化のため、係員を呼んでの通行となった。

■2019.10.19(土)

「丸森町災害ボランティアセンター」と県社協「県災害ボランティアセンター事務局」間をLive Onシステム(テレビ会議)で結び、相互に画像・音声通信を可能にした。その使い方の指導も実施した。また、トライアスロン協会から預かった500mmℓペットボトル25ケース500本、衣類等をセンターに提供した。

◆入口 ◆電光掲示板とLive Onの調整



■2019.10.20(日)

県内の被災状況調査のため、栗原市に向かった。東北道走行中に丸森町社協から「土嚢袋がないので調達して欲しい」との要望があったので、栗原市築館町のホームセンターで400枚の土嚢袋を調達。急いでいるということから、Uターンして丸森町に向かった。「丸森町災害ボランティアセンター」で土嚢袋を渡した。電光掲示板に表示する文章を作り、テストの後「丸森町災害ボランティアセンター」入口に電光掲示板を設置した。この間、NHKインタビュー取材カメラのバックに電光掲示板が流れていた。

■2019.10.21(月)

被災地では、空き巣の被害が多く発生しているのでセンターの入り口に防犯カメラを設置することになり、MDRCがカメラを設置することにしたが、カメラからの画像データの取り込みのネット環境に不具合があり、今後調整することにした。

丸森町筆甫地区につながる道の途中の不動尊公園キャンプ場に行ってみたが、濁流に土砂が流され大きな石がゴロゴロむき出しになっていて、濁流の凄さが見て分かった。

◆入口の電光掲示板



◆五福谷川の決壊箇所



◆不動尊公園キャンプ場 濁流に削られた箇所



■2019.10.22(火)

被災地調査と「災害ボランティアセンター」のため、涌谷町、大和町を回ったが雨天のため閉鎖。県内「災害ボランティアセンター」は、全て活動を停止していた。

■2019.10.23(水)

丸森災害ボランティアセンターに防犯カメラの設置工事に行った。Wi-Fi 環境がなかったので、この日は、設置工事完了とはならなかった。

■2019.10.24(木)

筆甫地区は、地区に通じる道が沢の洪水や土砂崩れ等ため十数か所で寸断され、大きく迂回しても一本の道でつながっているのみでした。私たちは、地元の方の案内で農道の山道を道路の片側が崩れた個所を車でかろうじて通り、筆甫の中心地「筆甫まちづくりセンター」(避難所にもなっている)にたどり着いた。

その後、同行したスタッフの知人宅を訪ねたが、悪路のため引き返すこととなった。帰り道、山道に戻るとき寸断された道に迷い込んでしまった。個人宅に迷い込み、そこの住民の方に道を聞いてかろうじて帰ってこることができた。

広い筆甫地区は、道が細いうえに山の斜面を縫うように作られているため、短時間豪雨時に一気に



に水があふれ、がけ崩れや鉄砲水が道を破壊することとなったよう。住民の方が以前の日常生活に戻るには、相当な時間を要し、その間不便な生活を強いられるようです。

今後順次情報を発信していきます。

宮城県内のボランティア情報は、情報一元化のため「宮城県社会福祉協議会」のホームページの「災害ボランティアセンター」をクリックして情報を確認してください。

